

令和5年度 事業報告書 令和5年度 決 算 書

自 令和 5年4月 1日
至 令和 6年3月31日

社会福祉法人小郡市社会福祉協議会

令和 5 年度事業報告

自 令和 5 年 4 月 1 日

至 令和 6 年 3 月 3 1 日

— 目次 —

小郡市社会福祉協議会組織体制 P 1

I 令和 5 年度総括 P 2

II 事 業 報 告

【法人運営部門】 P 3

【地域福祉活動部門】 P 8

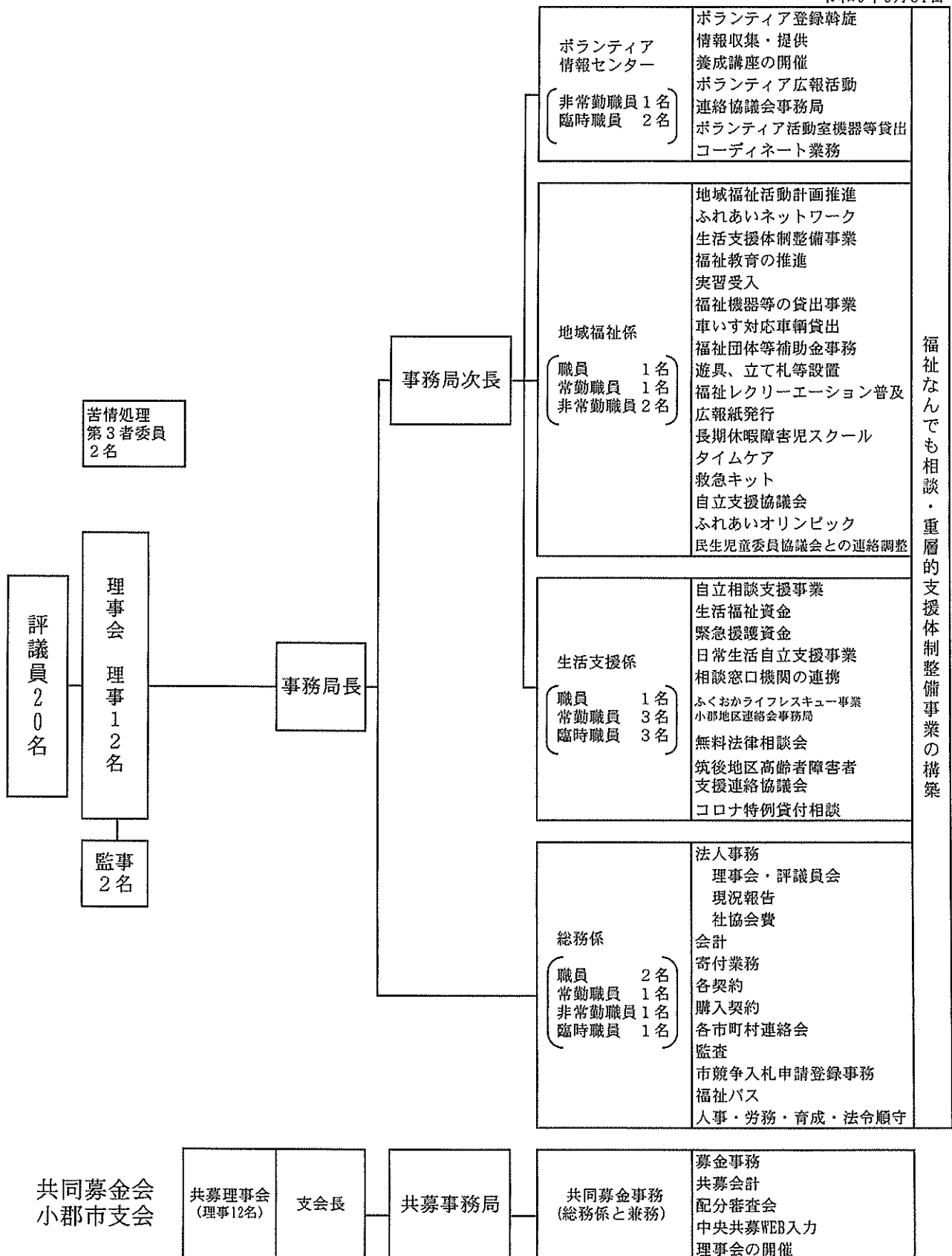
【相談支援・権利擁護部門】 P 23

【生活支援部門】 P 29

【部門間での取り組み】 P 32

小郡市社会福祉協議会組織体制

令和6年3月31日



I 令和5年度総括

令和5年5月新型コロナウイルスは季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行し、各種業務もコロナ禍前に戻りつつあった時期でした。

コロナ禍による影響は、潜在化していた困窮世帯や新たに経済的な支援を要する単身高齢者などが浮き彫りとなり、コロナ対策セフティーネット施策の一つである「コロナ特例貸付」だけでは困窮の出口が見えない相談が増え食糧・物品支給などの対処的な支援に留まっています。

そのような中で重点施策であった、「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた生活福祉資金特例貸付生活困窮状態が続いている借受人世帯への相談支援業務」では、生活困窮者自立相談支援事業、生活福祉資金貸付業務と一体的な支援を行い対応していますが、実申請者数690件の内、229件・約33%が外国籍申請者となっており、また、免除申請（非課税、生活保護、障害手帳所持等の条件）が5年度末で170件24.6%（外国籍申請14件）、申請者の約4分の1が免除となっているということは、何らかの理由で困窮している状態が続いていると考えられます。

上記のような、困りごとを抱える世帯も含め、属性や世代を問わず、断らず、丸ごと受け止め、連携して解決する「包括的な相談支援」を推進する体制整備を5年度から進めてまいりました。

しかしながら、縦割りの業務の中で職員間の理解が不十分であったため、一部の職員だけで業務を行い職員全体で取り組むことに課題を残しました。

また、「包括的な相談支援」と合わせ「社会参加支援」、「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を行う「重層的支援体制整備事業」では、介護保険の地域支援事業の「生活支援体制整備事業」の一部受託し「地域づくりに向けた支援」を推進するため生活支援コーディネーターが孤立しがちな高齢者世帯の支援に取り組み「人と人をつなぐ」ため、情報収集、人材養成、つながりの輪を広げる活動を行いました。

更に、各地で災害が頻発する中で、令和5年7月に起きた豪雨災害や能登半島地震など被災地では災害ボランティアセンターが設置されました

「相談支援」や「地域づくり」業務が凝縮された災害ボランティアセンターではボランティアや外部支援団体と協働し被災者支援を行うことになります。

能登半島地震では、被災家屋の支援以外にも仮設住宅への転居、また、仮設住宅のコミュニティづくりなど「助け合い」をキーワードに長期の活動となっています。

「相談支援」「地域づくり」を含め、各事業を行う中で「課題の把握・情報収集、提供・調整・交渉・異業種との交流・訪問支援」などの社会福祉協議会の援助技術が試されることを実感しました。

Ⅱ 事業報告

【法人運営部門】

健全な事業運営のため、理事会・評議員会等を開催し社協全体の事業等に関する審議を行いました。また事業運営の透明性を図るため監事による会計監査を実施し、適正かつ円滑な法人運営に努めました。

(1) 理事会、評議員会、監事監査、評議員選任・解任委員会の開催

①理事会

月 日	内 容
6 月 2 日	・ 令和 4 年度事業報告・決算について ・ 理事候補者（学識経験者）の同意について ・ 評議員候補者の推薦及び評議員選任・解任委員会の開催について ・ 定時評議員会の開催について ・ 会長の職務執行状況について
6 月 29 日	・ 会長の選定について ・ 副会長の選定について
3 月 21 日	・ 受託事業に係る消費税の取扱いについて ・ 令和 5 年度収支補正予算（案）について ・ 令和 6 年度事業計画（案）について ・ 令和 6 年度収支予算（案）について ・ 役員等賠償責任保険契約締結について ・ 評議員選任・解任委員会の選任について ・ 評議員会について ・ 会長の職務執行状況について

②評議員会

月 日	内 容
6 月 29 日	・ 令和 4 年度事業報告・決算について ・ 理事の選任について ・ 監事の選任について
3 月 29 日	・ 受託事業に係る消費税の取扱いについて ・ 令和 5 年度収支補正予算（案）について ・ 令和 6 年度事業計画（案）について ・ 令和 6 年度収支予算（案）について

③監事監査

月 日	内 容
5 月 19 日	・ 令和 4 年度第 3 期監査（決算監査）
9 月 26 日	・ 令和 5 年度第 1 期監査
1 月 30 日	・ 令和 5 年度第 2 期監査

④評議員選任・解任委員会

月 日	内 容
6 月 2 日	・ 評議員の選任について

(2) 会計管理・財務管理

- ①会計に関する法令等に基づき適正に計算書類を作成しホームページに公表しました。
- ②内部けん制体制を構築し複数人によるチェック機能を図り、日常の経理事務を適正に行い不祥事防止に努めました。

(3) 自主財源の確保

①赤い羽根共同募金運動の推進

地域の様々な課題に柔軟に対応する民間社会福祉活動の財源として、10月から12月まで赤い羽根共同募金運動を行い、行政区、関係団体・個人等の協力により、赤い羽根共同募金額は、8,878,145円の実績を上げることができました。

【各種募金実績】

募 金 種 別	令和5年度実績
戸別募金	5,611,280 円
街頭募金	80,201 円
個人・法人募金	1,660,323 円
設置募金箱募金	271,448 円
学校募金箱募金	211,539 円
資材（バッジ・ボールペン・クオカード等）募金	924,300 円
あすてらすフェスタ募金	47,113 円
自動販売機収入募金	71,926 円
預金利子	15 円
計	8,878,145 円

【共同募金会小郡市支会理事会・監査】

月 日	内 容
6 月 27 日	・令和4年度共同募金会小郡市支会監査（会計監査）
8 月 28 日	・令和4年度共同募金会小郡市支会事業報告・決算について
2 月 26 日	・令和5年度共同募金実績における令和5年度（令和6年度事業）共同募金配分（案）について ・令和6年度共同募金会小郡市支会事業計画（案）について ・令和6年度共同募金会小郡市支会本部サービス区分収支予算（案）について

- ・共同募金運動のチラシ23,030部を作成し、10月1日に市内各世帯等に配布

【災害義援金の受付】

災害により被災された方々の支援のため事務所窓口にて義援金募集を行いました。

名 称	受付期間
令和5年5月能登地方地震災害義援金	令和5年5月10日～令和5年9月29日
令和5年台風2号災害義援金	令和5年6月12日～令和5年9月8日
福岡県令和5年7月豪雨災害義援金	令和5年7月18日～令和6年3月29日
令和6年能登半島地震災害義援金	令和6年1月5日～令和6年12月27日(予定)

②寄付金・寄付物品の受入れ

市民の方や団体から福祉活動に活用してほしいと温かいご寄付をいただきました。

	件 数	寄付金額合計
香典返し寄付	11 件	500,000 円
一般寄付（物品寄付 4 件含）	53 件	1,785,790 円

③賛助・戸別会費の推進

市民の「福祉参加」として社協事業にご賛同いただき、会費を通して様々な福祉活動を資金面で援助いただくため、賛助会員制度の推進に取り組みました。

会 員	件 数	会 費 額 合 計
個人会費	118 件	240,000 円
法人・団体会費	29 件	190,000 円
戸別会費	—	2,345,476 円
計	147 件	2,775,476 円

④財団助成等の財源確保

誰もが安心して暮らせるまちを目指して、中央共同募金会が募集する「つながりワーカー講座助成事業」の申請を行い50万円の助成決定を受け令和5・6年度事業継続中です。

（４）職員の資質能力の向上（研修会等への参加状況）

①役職員に関する研修等

月 日	会議及び研修会の名称	主 催
4 月 17 日	両筑地区社協連絡会会長・事務局長会議	連絡会
10 月 20 日	両筑地区社協連絡会事務局長会議	連絡会
10 月 23 日	福岡県社会福祉大会	福岡県・福岡県社協
12 月 5 日	11 市社協連絡会	連絡会
12 月 7 日	両筑地区社協連絡会会長・事務局長会議	連絡会
12 月 21 日	市町村社協会長・局長研修会	福岡県社協
3 月 22 日	両筑地区社協連絡会事務局長会議	連絡会

②総務関係研修

月 日	会議及び研修会の名称	主 催
4 月 24 日	小郡市人権・同和教育研究協議会 (略称:市同研)社会教育部会推進委員学習会 全4回	市同研
5 月 24 日	救命講習会	市健康課
6 月 21 日	算定基礎届事務説明会	日本年金機構
6 月 23 日	安全運転管理者講習会	安全運転管理協議会
9 月 28 日	会計担当者研修実践者コース	県社協
1 月 24 日	電話相談実務者研修会	福岡県社協
2 月 1 日	福祉サービス苦情解決従事者研修会	福岡県社協
2 月 2 日	市町村社協会計セミナー	福岡県社協
2 月 3 日	両筑地区社協連絡会全体研修会	連絡会
3 月 2 日	市同研社会教育部全体研修会	市同研
3 月 26 日	職員人権学習	市社協

③地域福祉に関する研修

月 日	会議及び研修会の名称	主 催
4 月 5 日	両筑地区社協連絡会地域福祉活動部会 全 4 回	連絡会
5 月 12 日	市町村地域福祉計画・重層的支援体制整備事業に関する研修会・福岡県再犯防止推進市町村連絡会議	福岡県
5 月 26 日	福岡県地域福祉活動職員連絡会研修会	連絡会
8 月 22 日	生活支援体制整備事業と地域づくり研修会in沖縄	さわやか九州1ブロック
8 月 24 日	市要保護児童対策地域協議会関係者研修会	市子育て支援課
9 月 7 日	市民生委員児童委員協議会総務会研修	市民協
9 月 15 日	重層的支援体制整備事業の本格施行に向けた関係職員研修	大刀洗町社協

④相談・権利擁護に関する研修

月 日	会議及び研修会の名称	主 催
5 月 31 日	生活福祉資金事務説明会	福岡県社協
6 月 14 日	福岡県日常生活自立支援事業専門員研修会 全 2 回	福岡県社協
6 月 23 日	高齢者の権利擁護に関する講演会	市包括支援
6 月 28 日	日常生活自立支援事業両筑地区ブロック連絡会	連絡会
7 月 7 日	成年後見制度利用促進研修会	福岡県社協
9 月 7 日	生活困窮者支援に活かす社会調査研修	福岡県社協
10 月 31 日	成年後見制度における市町村長申立等研修会	福岡県社協
11 月 8 日	福岡県日常生活自立支援事業生活支援員研修会	福岡県社協
12 月 12 日	筑後地区高齢者支援連絡協議会研修会	連絡会
12 月 22 日	生活困窮者自立支援事業従事者スキルアップ研修	県福祉労働部
12 月 27 日	福岡県ひきこもり支援者等地域ネットワーク会議	県精神保健福祉センター
1 月 12 日	両筑地区社協連絡会生活福祉資金担当者会	連絡会
1 月 18 日	生活困窮者自立支援制度テーマ別研修「生活困窮者支援における子どもと家族支援」	全国社協

⑤ボランティアに関する研修

月 日	会議及び研修会の名称	主催
5 月 22 日	両筑地区社協連絡会ボランティア担当職員意見交換会 全 2 回	連絡会

(5) 労働法制に基づいた労務管理

所轄庁への届出や対外的な法的対応を行う法務に関する業務

総務係において適切な労務管理を行い、また、理事の任期満了に伴い会長就任並びに資産変更登記を行いました。

(6) 災害に対する対応

①「令和5年7月豪雨災害」における災害支援

小郡市社会福祉協議会では、被災にあった市内の被災住宅の後片付け支援と両筑地区社会福祉協議会災害時相互支援協定に基づき「うきは市災害ボランティアセンター」へ支援職員を派遣し災害支援活動を行いました。

また、「久留米市災害ボランティアセンター」運営支援のため職員派遣、更に、災害ボランティアを募集し災害ボランティアバスを運行、災害支援活動を行いました。

【支援活動一覧】

月 日	支援先	活動内容
7月11日	市 内	被災住宅の後片付け職員による支援
7月14日	市 内	被災住宅の後片付け職員・ボランティアによる支援
7月15～25日 29日30日	うきは市	うきは市災害ボランティアセンター運営支援 (支援日数13日、派遣職員数延40名)
8月4日	久留米市	久留米市の災害ボランティア活動
8月7日	久留米市	久留米市の災害ボランティア活動
8月8日	久留米市	久留米市の災害ボランティア活動(台風の為中止)
8月9日	久留米市	久留米市の災害ボランティア活動(台風の為中止)
9月14～17日 21日22日	久留米市	久留米市災害ボランティアセンター運営支援 (支援日数6日、派遣職員数延6名)

②「令和6年1月能登半島地震」における災害支援

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議より、石川県穴水町災害ボランティアセンター運営支援の要請を受け支援職員を派遣し災害支援活動を行いました。

月 日	支援先	活動内容
3月2日～8日	石川県	穴水町災害ボランティアセンター運営支援 (支援日数7日、派遣職員数1名)
3月30日 ～4月7日	石川県	穴水町災害ボランティアセンター運営支援 (支援日数9日、派遣職員数1名)

【地域福祉活動部門】

1. 地域福祉活動

(1) ふれあいネットワーク活動の推進

地域に住む住民一人ひとりが、それぞれの立場から無理のない形で孤立しがちな高齢者や支援が必要な対象者への声かけ訪問、見守り、その他簡単な生活の手助けをする中から、支援が必要な高齢者等の悩みや問題を早期に気づき、区長・民生委員児童委員や関係機関と連携し、その問題を解決する小地域福祉活動「ふれあいネットワーク」活動を推進しました。

① 組織的推進体制の強化

【小郡市ふれあいネットワーク推進委員会】

5月9日	≪協議事項≫ ・推進委員会委員の交代について ・令和4年度 事業報告・決算報告の承認 ・令和5年度 事業計画(案)・予算(案)	小郡市総合保健福祉センター
------	--	---------------

【各校区推進委員会活動状況】

校 区	推進会議等回数	研修会や校区カフェサロン等
小 郡	7	10/29 音楽のつどい 参加者 113 名 2/25 健康落語会 参加者 53 名
大 原	9	5/16 認知症サポーター養成講座 参加者 11 名 11/21 大原小学校と協働での「親子で認知症サポーター養成講座」 参加者 54 名 1/7 健康落語研修会 参加者 73 名
東 野 (専門委員会)	2	6/11「ふれあいネットワーク活動について」研修会 参加者 30 名 11/13「地域包括支援センターの活動について」勉強会 参加者 16 名 1/29「地域の支え合いまちづくり講座」研修会 古賀市地域活動サポートセンター“ゆい”の活動を学ぶ 参加者 73 名
三 国	11	7/2 ヒロ&エリ コンサート 参加者 100 名 2/25「タッピングタッチ」 参加者 34 名・3/10「呼吸筋ストレッチ体操 基本編」 参加者 30 名 両日講師久留米大学 石田教授
のぞみが丘小	5	11/5 自分サポートプロジェクト 参加者 25 名 2/11 レクリエーション大会 参加者 58 名
立 石	5	5/20～R6 3/16 くらつちカフェ 参加者延 544 名 6/24 救命講習会 参加者 31 名 9/2 校区ふれあいネットワーク推進大会 参加者 52 名 11/4 立石 SOS ネットワーク搜索、声かけ模擬本訓練 参加者 66 名
御 原	5	11/15 校区推進委員会 各行政区活動報告社協意見交換会 参加者 15 名
味 坂	4	4/20～R6 3/21 カフェあじさか広場 全 12 回参加者延 231 名

② 「ふれあいネットワーク」研修会

今年度は各行政区のふれあいネットワーク推進委員等、区長、民生委員児童委員へ研修を通してふれあいネットワークの重要性を確認、再確認してもらい小地域福祉活動を行ってもらうために研修会を開催しました。

9月30日 午前の部 10時～正午 午後の部 2時～4時	説明①／ふれあいネットワークについて（社協） 説明②／個人情報の取り扱いについて（市総務広報課） 講演／「個人情報に気を付けたふれあいネットワーク活動」 講師：motto ひょうご 事務局長 栗木 剛 氏 参加者：148名
--	---

③ 救急医療情報キット

単身世帯のため急病で倒れてしまった場合、緊急通報先等の情報を救急隊員に確実に発することができるよう「救急医療情報キット」を追加配布しました。

また、台帳内容変更、キット削除者の更新作業を随時行いました。

【救急情報キットの配布状況】

累計令和6年3月末日現在

校 区	件 数	校 区	件 数	校 区	件 数
小 郡	75	立 石	30	三 国	153
大 原	101	御 原	15	のぞみが丘小	3
東 野	28	味 坂	31	合 計	436

④ ふれあいネットワーク校区推進費

各校区のふれあいネットワーク活動を推進する事業に対し、活動支援を行いました。

校 区	助成金額	校 区	助成金額
小 郡	84,000 円	のぞみが丘小	42,000 円
大 原	60,000 円	立 石	74,000 円
東 野	54,000 円	御 原	54,000 円
三 国	90,000 円	味 坂	56,000 円
		合 計	514,000 円

⑤ 各区ふれあいネットワークの推進

コロナも5類になり地域活動が再開されてきました。そこで、「サロン等の集まりでできる講座一覧表」を作成し、区長や民生委員・児童委員等へ配布しました。

⑥ ふれあいネットワーク活動助成事業

各行政区において、支援が必要な高齢者などの悩みや問題に早期に気づく声かけや見守り活動に係る経費、身近な公民館等を利用し外出のきっかけや地域の交流を目的としたサロンの様な開催を目指す各区での事業に対し、助成金を交付し活動の推進を図りました。

令和5年度	申請 62 行政区中 58 行政区	決定額 2,690,000 円
令和4年度	申請 62 行政区中 58 行政区	決定額 2,670,000 円
令和3年度	申請 62 行政区中 58 行政区	決定額 2,650,000 円

⑦ 脳トレ！宝満ノート配布

福祉なんでも相談の周知と、新型コロナウイルスの影響により、各区の集いの場であるサロン活動や見守り活動の実施が困難となったため、「脳トレ！宝満ノート」を作成し、見守り活動等に活用して頂けるよう区長や民生委員児童委員等協力のもと配布しました。

【令和５年度配布実績】

校 区	配布数	校 区	配布数	校 区	配布数
小 郡	266	立 石	213	三 国	1,042
大 原	200	御 原	101	のぞみが丘小	64
東 野	275	味 坂	120	校区コミュニティー センター	719
計					3,000

⑧ セタ出前講座による「ふれあいネットワーク」出前講座

7月4日 13:20～14:50	講義「ふれあいネットワーク」 参加者：平岡介護福祉専門学校1・2年生 59名
---------------------	---



2. 福祉教育事業

(1) 児童・生徒の福祉教育の支援

① 福祉教育教材「ともに生きる」を配布

学校や家庭での福祉教育教材として活用するため、希望があった市内の6小学校の4年生と特別支援学校小学部に439冊無償配布しました。

② 福祉教育協力校の活動助成

学校名	福祉活動協力校の主な活動内容
大原 中学校	・人権学習会（身の回りの人権について学ぶ） ・意識啓発活動：性に関わる差別や暴力をなくすための医療・福祉の意義について学ぶ ・キャリアモデルとの出会い体験学習 （人生の先輩である地域で働く方々から、働くことの意義を学ぶ） ・書道体験 （地域の書道家を講師に招き、心豊かな子どもたちを育むとともに、伝統文化を継承する） ・平和学習（大刀洗フィールドワーク）一身近な地域の戦争実態をフィールドワークを通して平和の大切さを学ぶ
小郡 中学校	・小郡特別支援学校と交流（歌・ダンスをとおして交流を行い、手作りのメダルを贈る）
立石 中学校	・福祉体験事前学習（福祉について、共生社会についての学習） ・福祉体験学習（三井高校福祉教養コースの生徒による講話と手話体験）
御原 小学校	・車椅子ユーザーの方との交流 ・アイマスクと白杖体験学習 ・視覚障がい者、盲導犬との交流学習 ・小郡特別支援学校と手紙を通して交流 ・手話体験 ・赤い羽根共同募金活動
大原 小学校	・「伝え合おう、わたしたちの心」障がいがある方や認知症への見方・考え方についての学習、視覚障がい者・盲導犬との交流、点字体験（4年） ・「大原小アグリカルチャー大作戦」米作り体験（5年）で地域の方々と交流する「ぐんぐんそだて わたしのやさい」（2年）地域の方々と交流しながら野菜の栽培活動を行う
東野 小学校	・赤い羽根共同募金活動 ・社会福祉理解促進活動（点字体験） ・視覚障がい者、盲導犬との交流 ・車椅子ユーザーからの講話・交流 ・手話体験 ・聴覚障がいへの理解促進活動 ・人権の花ひまわりの栽培（5月）花づくりを通して人権について考える
三国 小学校	・「伝え合おう、わたしたちの心」障がいがある方や認知症への見方・考え方についての学習（4年）・社会福祉理解促進活動「点訳堂の会」による点字体験学習、視覚障がい者・盲導犬との交流、難聴者との交流、車椅子ユーザーとの交流、認知症サポーターの学習
立石 小学校	・社会福祉理解促進活動 点字体験、盲導犬ユーザーの方との交流（4年） ・小郡特別支援学校との交流（2年）、高齢者との交流活動 ひょうたん作り（4年）、地域の高齢者に郷土料理を学ぶ（3、4、5、6年）。認知症サポーター養成講座（3年） ・意識啓発活動 赤い羽根共同募金活動
味坂 小学校	・社会福祉理解促進活動 車椅子体験学習、車椅子ユーザーの方との交流 視覚障がい者、盲導犬との交流。手話体験、聴覚障がい者との交流 ・意識啓発活動 障害者福祉施設（風の丘）の施設長から「障がい」に対する見方について講話を聴く ・地域づくり活動 地域行事参加（あじさかポピー祭り・21の会との交流、かごづくり）・赤い羽根共同募金活動
小郡 小学校	・社会福祉理解促進活動 デフサッカー選手との交流、聞こえについての講話
のぞみ が丘 小学校	・社会福祉理解促進活動 総合的な学習「よりよい暮らしをめざして」手話体験、視覚障がい者との交流、点字体験、車いす・車いすバスケット体験 ・赤い羽根共同募金活動

③ 総合学習への対応

小中学校で行われている人権や福祉の教育の取り組みに対して、体験学習の指導及び講師の紹介、備品の貸出しなどを行いました。



大原小学校 4 年生
車いす体験授業
(10 月 30 日)の様子

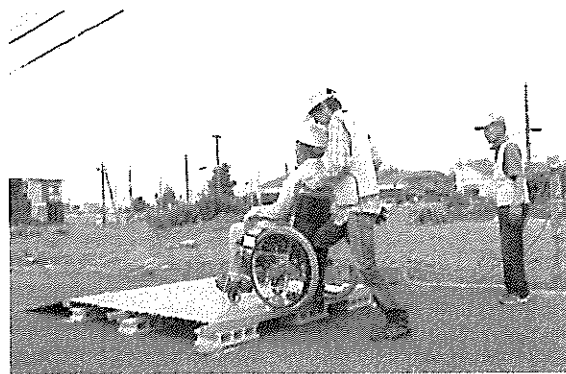
(2) 福祉用具教材の貸出しなどの福祉体験学習支援

高齢者や障がい者に対する理解を図るため車いすや白杖、アイマスク、高齢者疑似体験教材等の貸出しを行いました。

例年、貸出しの多くは小中学校の福祉体験授業での利用でしたが、多発する災害に備え、各行政区の災害避難訓練等での車いすの貸出しが増えています。

	車いす	アイマスク	白杖	点字板	高齢者疑似体験
年間利用件数	160 台	103 枚	91 本	240 台	29 セット

※車いすの利用件数は、学習利用と在宅支援による利用の合計件数です。



【中央 2 区の活動様子 (6 月 10 日)】

災害避難訓練に車いすを 5 台利用されました。参加いただいた区民の皆さんから「車いすの操作と車いすに乗った人の気持ちを理解できた」と感想をいただきました

(3) 広報活動

多くの市民に福祉情報を提供できるよう、広報紙やホームページ、案内チラシ等を通じて広報活動を行い、福祉サービスなどの情報を提供することに努めました。

① 年4回「小郡市社会福祉協議会だより」を発行

発行状況			
188号(6月1日発行) 特集: ネットワーク活動を楽しくやるためには? 関西弁で笑いを誘う楽しいトークで「元気でぼちぼち見守りしていこうなあ」と、栗木先生の講演内容を掲載し地域活動の特集	189号(9月1日発行) 特集: 赤い羽根共同募金共同募金配分金による活動状況を紹介 また、10月からの共同募金運動のご協力を広報	190号(12月1日発行) 特集: 身近な社協の福祉活動 社協の活動をご存じない方もおられることを踏まえ、地域の方が利用できる身近な社協を係別に紹介	191号(3月15日発行) ボランティア情報センターの活動紹介と能登半島地震災害義援金募集を広報 また、昨年度の共同募金運動の募金活動の報告を掲載

② ホームページを活用した情報提供

各係で必要な情報を随時更新に努めました。

ホームページに災害義援金の案内や福祉講座の案内募集を掲載することで多くの方に協力や活動を周知しました。

③ その他の情報伝達媒体を活用した広報活動

案内チラシ等は、手に取ってもらえるようデザインに工夫を凝らした作成に努めました。

④ 取材については、目的を伝え写真撮影の承諾や掲載承諾をいただくなど、個人情報に配慮した取材に努めました。

(4) 実習生の受け入れ

① 社会福祉士を目指す学生の現場実習を受け入れ、プログラムを組み、地域福祉におけるソーシャルワークをより実践的に学ぶことを心がけ、麻生医療福祉専門学校実習生を受け入れました。

令和5年8月7日～8月21日の内 10日間 1名

② 社会福祉分野の実践者、専門職の育成を目的とした社会福祉援助技術実習「地域の社会資源」について、久留米高等技術専門校介護サービス科の学生を受け入れました。久留米高等技術専門校のカリキュラムが年間二期制から一期制に変わったことにより実習の回数が一回になりました。

令和5年11月9日(木) 10:00～15:00 17名

3. 生活支援体制整備事業の実施

住み慣れた地域で生きがいを持って暮らしていけるように支え合いの地域づくりを推進するため生活支援コーディネーターを配置し、地域の中で高齢者や子どもなどが集える居場所づくりに取り組んでいる団体の活動を支援するため、先進的な居場所づくりを行っている他地域の視察研修や交流会を行い、地域の居場所づくりに関する情報収集とネットワークづくりを行いました。

(1) 地域ニーズと資源の把握に関する業務

会議名	内 容	回数
地域ケア会議(西包括)	事例検討(3事例)	3回
地域ケア会議(東包括)	事例検討(3事例)	3回
地域ケア会議(南包括)	事例検討(4事例)	4回

(2) 高齢者の地域での居場所・社会参加の場の調査とコーディネート業務

① 高齢者地域資源一覧表とマップの作成(5月23日300部発行)

② ささえ愛おごり生活ガイド帳作成(10月10日360部発行)

※配布先：市役所、包括支援センター、ケアマネージャー、コミュニティセンター、行政区関係者など

(3) 担い手の育成に関する業務

① 地域支え合い推進員養成講座の開催(全4回)

内 容：高齢者を取り巻く課題を理解し、支え合いの仲間を見つけ、地域の支え合い活動を推進する方を養成する講座を行いました。

申 込 数：39名(参加者延：84名)

開催会場：小郡市総合保健福祉センター「あすてらす」

月 日	内 容	講師	参加者数
7月18日	・高齢期こそ筋力アップ ・自分でできる健康寿命の延ばし方	社会医療法人シマダ 嶋田病院理学療法士 百武 大志氏	26名
8月25日	・もっと知りたい認知症 ・住み慣れた地域で自分らしく暮らすには	キャラバンメイト 認知症介護指導者 後藤 嘉朗氏	27名
9月5日	・高齢者の心理 ・こころと身体を整える、やさしい生き方	医療福祉センター 聖ヨゼフ園 公認心理師 家永 貴久氏	23名
9月19日	座談会「住み慣れた地域で自分らしく暮らすには」		8名

② ささえ愛隊小郡定例会

地域支え合い推進員養成講座を受講した推進員(愛称：ささえ愛隊小郡/登録会員22名)が定例会、勉強会を行いました。

月 日	内 容	参加者数
4月25日	これからの活動・地域包括ケアシステム	9名
5月26日	前回の振り返り・次回テーマについて	8名
6月28日	スキルアップ講座(七夕折り紙)	8名
10月25日	認知症と向き合う	10名
11月29日	今後の活動,これからやってみたい事	13名
2月27日	今までの活動・ささえ愛隊小郡の登録・ささえ愛おご おり生活ガイド帳について	10名
3月25日	今後の活動について	12名

③ ささえ愛隊小郡活動等

地域支え合い推進員養成講座を受講した推進員(愛称：ささえ愛隊小郡)が地域の活動支援を行いました。

月 日	派遣先	内 容	派遣人数
4月28日	この指とまれ	難聴の方へ筆談支援	1名
5月26日	この指とまれ	難聴の方へ筆談支援	2名
6月23日	この指とまれ	難聴の方へ筆談支援	2名
9月30日	東野区サロン	介護予防出前講座	3名
12月15日	いこいの森カフェ	カフェサポーター	6名
1月15日	いこいの森カフェ	カフェサポーター	6名
2月15日	いこいの森カフェ	カフェサポーター	8名
3月15日	いこいの森カフェ	カフェサポーター	8名

④ つながりワーカー養成講座(映像プログラム)

内 容：地域のつながりの希薄化や経済状況の悪化など孤立のリスクが高まっています。そこで、孤立に気づき、つながり、地域の見守る人材「つながりワーカー養成講座」を行いました。

映像監修：ルーテル学院大学 福島 喜代子氏

参加延べ人数：153名

月 日	内 容	参加者数
9月30日	地域福祉研修会 (個人情報の取り扱い・地域の見守りについて)	19名
1月19日	つながりワーカー講座・見守りについて	16名
1月26日	つながりワーカー講座・ささえ愛小郡生活ガイド帳	17名
1月30日	つながりワーカー講座・ささえ愛小郡生活ガイド帳	8名
2月4日	つながりワーカー講座・見守りについて	7名
2月6日	つながりワーカー講座・ささえ愛小郡生活ガイド帳	21名
2月25日	つながりワーカー講座・ささえ愛小郡生活ガイド帳	6名
3月4日	つながりワーカー講座・見守りについて	12名
3月5日	つながりワーカー講座・ささえ愛小郡生活ガイド帳	13名
3月11日	つながりワーカー講座・ささえ愛小郡生活ガイド帳	14名
3月26日	つながりワーカー講座・ささえ愛小郡生活ガイド帳	20名

(4) 会議・連絡会等(オンライン研修)

月 日	内 容
6月6日	生活支援コーディネーター連絡会 (アドバイザー派遣モデル事業)
6月11日	東野校区研修会：個人情報、生活支援体制整備事業
9月2日	立石校区健康福祉部会「SOS 認知症研修会」
9月7日	民生委員児童委員協議会総務会視察研修 「古賀市地域活動サポート」
9月15日	地域ケア会議研修会
10月10日	コーディネーター連絡会 「実践の現場からみる生活支援体制整備事業」
10月13日	ケアマネ学びの会 「地域資源、ささえ愛おごおり生活ガイド帳」
10月14日	生きがい・助け合いオンラインフェスタ 「シニアの社会参加の実践」
10月24日	研修「弁護士が教える成年後見人のい・ろ・は」
11月13日	東野校区勉強会「地域包括支援センターの活動について」
11月15日	御原校区健康福祉部会 「意見交換会」
11月21日	大原校区健康福祉部会 「親子認知症サポーター養成講座」
11月26日	三国まち協理事研修会 「三国校区の買い物支援を考える」
12月5日	立石校区健康福祉部会 「意見交換会」
12月20日	生活支援体制整備事業検討会議 「生活支援コーディネーターの活動について」
1月9日	地域共生社会の時代に求められる民生委員児童委員の 役割について
1月29日	東野校区支え合いのまちづくり講座 「古賀市地域活動サポート」
2月8日	生活支援コーディネーター連絡会 「グラフィックレコーディング」
2月13日	大原校区民生委員児童委員視察研修 「大牟田市認知症の取り組み」

4. 福祉団体活動支援

地域の様々な課題に柔軟に対応するため共同募金配分金を財源として、公募により総額 6, 279, 950 円の配分を行いました。

No.	団体名	事業の内容
1	傾聴ボランティア「でんでん虫」	傾聴入門講座、県外団体とのオンライン交流会
2	おもやい広場「くまさん文庫」	毎週土曜日開催。絵本の読み語り、紙芝居、本の貸出を行い子育て相談支援活動、会報誌発行スタッフ読み語り研修
3	NPO 法人しょうがい者と共に生きるみんなのかえるランド	障がい者の教育・生活支援・生活相談に関する事業 ユニット保管棚購入一部費用
4	おごおりこどもひろば	週末学校休業日などに食事提供をし、安心して過ごせる、小中学生のこどもの居場所づくり
5	小郡市老人クラブ連合会	高齢者支援、見守り、触れ合い活動等（健康体操、フレイル講座等）
6		健康保持、スポーツ、健康講座活動等（グラウンドゴルフ大会、ダーツ大会等）
7	小郡市身体障害者福祉協会	福岡県障がい者スポーツ大会、ふれあいオリンピック等への参加、うきは市での研修・交流会
8	小郡市母子寡婦福祉会	親子レクリエーションでミカン狩りやクリスマスリース作成
9		一日父親行事をみい青年会議所の協力により木島高原パークにて交流
10	小郡警察署少年補導員連絡会	青少年非行防止・少年補導活動として、月 2 回の市内パトロールと年 2 回の深夜パトロール
11	久留米保護区小郡保護司会	月 2 回の青少年非行防止ため夜間街頭補導パトロール
12	小郡市保育協会	保育所が子育て支援をより充実させるための研修、大学講師などを呼び講演・実習・ディスカッションを行う「キャリアラダー研修」実施
13		保育フェスタ in おごおり開催、チラシ制作
14	小郡市民生委員児童委員協議会	地域福祉広報啓発とし、横断幕、のぼり旗、パンフレット、ポケットティッシュ、そして広報紙を作成
15		民生委員児童委員資質向上研修会
16	小郡市青少年育成市民会議	おごおりっ子からのメッセージ主張大会開催、メッセージ文集の作成
17		広報「市民会議だより」・「活動報告書」の発行
18	小郡点訳蜚の会	市内小学校での点字学習指導、久留米高等技術専門校への点字指導、盲人会への情報提供、盲人会との交流、情報誌点訳発送、NPO 法人サポネットおごおり総会・理事会資料点字協力
19	小郡手話の会	手話の習得（研修・活動）と広報紙発行、活動者へのボランティア保険加入
20	小郡テープの会	市報の朗読録音、録音 CD 発送、NHK 日本語朗読セミナー参加

No.	団体名	事業の内容
21	小郡要約筆記の会「たなばた」	聴覚障がい者支援サポーター講座・難聴者との交流会、プリンタ購入
22	日本車椅子レクダンス協会 小郡支部	身体不自由でも、高齢でもレクリエーションが楽しめるように車いすレクダンスを普及啓発活動
23	小郡市ボランティア連絡協議会 (ボラ連)	小郡市ボランティア連絡協議会の広報紙発行 共に生きるまちづくり、またボランティア育成を推進するボランティア養成講座を全5回講演会や映画上映で啓発
24	福祉教育協力校 市内小中学校 13 校	福祉体験授業、高齢者・障がい者との交流や認知症サポーター養成講座の授業

5. 機材等の貸出

地域で活動する団体等の楽しみに輪なげやダーツ等のレク道具の貸出。また、訓練やイベント等で使用するテントや放送機器、移動式エアコン等を貸出しています。

これらの機材等の貸出は、地域活動の活発化を目的とするため、広報紙で利用のPRを行い、機材等の管理整備に努めました。

【主な無料機材の利用数】

公文式 数字盤	ダーツ	放送 機材	カラオケ セット	ビンゴ ゲーム	輪なげ	ボーリン グゲーム	移動式 エアコン	テント
2 回	13 回	7 回	4 回	5 回	2 回	1 回	2 回	2 回

【有料機材（1000 円/1 回）】

綿菓子機	電動かき氷機	手動かき氷機
9 回	8 回	1 回

6. ボランティア情報センター事業

ボランティア情報センターでは、ボランティアに関する情報の収集・提供、ボランティアの養成、活動支援、広報啓発活動、相談受付・コーディネート、活動室や備品の貸出等を行いました。

(1) ボランティア情報センター

活動・利用状況・相談・登録・斡旋・保険加入実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
登録団体数		21	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	
登 録 人 数		3	2	1	7	7	1	0	2	1	0	2	1	27	
ボランティア情報センター	利用回数	午前	4	2	3	4	4	4	1	4	2	0	5	4	37
		午後	2	3	3	3	2	2	2	1	4	2	1	3	28
		夜間	7	6	6	5	5	10	7	9	6	4	6	10	81
		終日	2	3	5	3	4	5	4	1	3	2	2	4	38
		合計	15	14	17	15	15	21	14	15	15	8	14	21	184
	利用人員	午前	28	9	12	14	20	8	2	29	11	0	35	28	196
		午後	10	13	4	15	13	7	5	10	13	8	4	14	116
		夜間	52	47	29	33	40	62	47	72	37	27	52	74	572
		終日	17	29	36	21	35	33	34	4	12	14	7	27	269
		合計	107	98	81	83	108	110	88	115	73	49	98	143	1,153
活動室利用	利用回数	午前	11	4	6	8	8	6	6	6	5	6	7	8	81
		午後	5	6	5	7	7	5	5	6	3	6	10	3	68
		夜間	6	10	15	15	13	14	12	8	6	5	8	9	121
		終日	4	7	5	4	5	3	4	3	2	3	4	5	49
		合計	26	27	31	34	33	28	27	23	16	20	29	25	319
	利用人員	午前	106	31	51	61	72	52	56	52	42	63	93	59	738
		午後	40	58	56	47	62	39	26	29	14	45	111	18	545
		夜間	50	74	95	118	92	108	70	84	60	59	94	97	1,001
		終日	44	52	42	31	40	30	47	23	19	25	23	51	427
合計		240	215	244	257	266	229	199	188	135	192	321	225	2,711	
保険	件数（件）	16	12	6	29	20	0	4	4	4	3	6	25	129	
	人数（人）	171	212	145	91	292	0	91	69	71	56	80	454	1,732	
相談件数（件）		11	5	7	27	15	12	5	10	6	10	9	7	124	

(2) ボランティア講座の開催

①福祉レクリエーションボランティア講座の開催（全10回）

日時：令和5年9月5日（火）～ 令和5年11月7日（火）

内容：地域のふれあいネットワークのサロン活動等で活躍していただくボランティアの方を養成する講座を行いました。

講師：福岡県レクリエーション協会 名誉顧問 佐藤靖典氏

米倉和子氏 瀧信子氏 砥綿敬二氏

申込者数：33名

開催場所：小郡市総合保健福祉センター「あすてらす」内多目的ホール

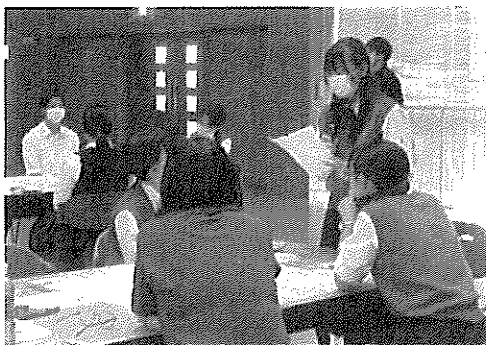
回	月 日	内 容	参加者数
1	9月5日	お久しぶりです！今年もよろしく！～ゲーム&ダンスで仲間との交流を楽しみましょう～	25名
2	9月12日	楽しいレクリエーションの数々、歌遊び・体操・ダンス・クラフト・ゲームなど	28名
3	9月19日	歌う喜び・ダンスの楽しみと一緒に！	22名
4	9月26日	人生楽しんでいますか？～高齢期を楽しく・元気に生きる～ 特別講師：みやき町社会福祉協議会西田雄一郎	29名
5	10月3日	皆さんに喜ばれる～ノリノリダンスをかつこよく！楽しみましょう～	21名
6	10月10日	歌う喜び・ハーモニ～の楽しみ① ギターの演奏に合わせて歌う喜びをごいっしょに！	28名
7	10月17日	～主役はあなたです～高齢期を楽しく生きる！	30名
8	10月24日	歌う喜び・ハーモニーの楽しみ② ギターの演奏に合わせて歌う喜びを一緒に！	28名
9	10月31日	～人の役に立ってこそ生きる甲斐あり！～ 地域の皆さんを笑顔・元気にする活動を期待しています！	27名
10	11月7日	～グループ実習競演「No1は？」～まとめ	28名
計			延 266 名



②災害ボランティア講座

災害ボランティアに関する心得等の基礎知識を習得し、防災に関する興味関心を持つことを目的に開催しました。

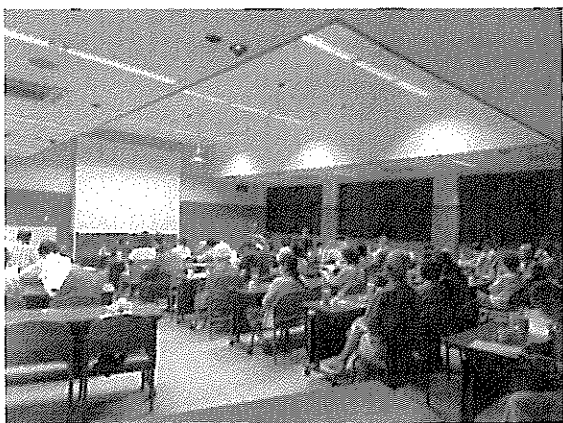
月日	開催場所	テーマ及び講師名	参加者数
5月28日	あすてらす 多目的ホール	「災害ボランティアについて知ろう！」 講師：おごおり☆防災士会 山田徳重氏・大井昌也氏	三井高校生 11名 小郡高校生 12名 一般 4名 合計 27名



③ふくしセミナー（地域ボランティア講座）

老後の資金に漠然と不安を抱えるのではなく、地域には社会福祉協議会があり、社会福祉協議会では生活の困りごとの相談窓口があることを知ってもらう。地域で暮らす一人一人が「ふくし」について考える機会となり誰もが安心して暮らせる町づくり、そして自分の事だけに留まるのではなく周りの人にも手助けできる地域づくりをめざして地域ボランティアの裾野を広げることを目的に開催しました。

月日	開催場所	内 容	参加者数
9月1日	あすてらす 視聴覚室	映画「老後の資金がありません」上映会	67名
9月2日	あすてらす 視聴覚室	映画「コーダ あいのうた」	50名



(3) ボランティア連絡協議会の運営支援

小郡市ボランティア連絡協議会の事務局を担当し、活動支援を行いました。

月 日		内 容
4 月	10 日	第 1 回役員会・会計監査
5 月	21 日	総会 56 名参加 講演会 小郡市消費生活相談室 相談員 田中幸子氏 「悪質商法やトラブルに遭わないコツ」
6 月	5 日	第 1 回理事会
7 月	30 日	ぼらネット 57 号発行
8 月	7 日	第 2 回理事会
9 月	14 日	第 3 回理事会
10 月	7 日	第 1 回喜楽塾（キャラバンメイト 認知症サポーター養成講座） 受講生 27 名参加
	10 日	第 4 回理事会
	15 日	第 25 回ふれあいオリンピック 37 名参加
	29 日	第 20 回あすてらすフェスタ
11 月	11 日	第 2 回喜楽塾（ボラ連団体紹介）受講生 24 名参加
	30 日	第 5 回理事会 ぼらネット 58 号発行
12 月	9 日	第 3 回喜楽塾（防災落語で発見 今日から始める自分減災） 受講生 38 名参加
	16 日	糸島ボラ連視察研修受け入れ
1 月	16 日	第 6 回理事会
	20 日	第 4 回喜楽塾（ボランティア体験コーナー）受講生 39 名参加
2 月	10 日	第 5 回喜楽塾（映画上映「こんな夜更けにバナナかよ」） 受講生 43 名参加
	18 日	きずなフェスティバル
	20 日	第 7 回理事会
3 月	22 日	ぼらネット 59 号発行

7. 地域福祉計画と地域福祉活動計画の一体的策定

【地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会開催】

小郡市の地域福祉に関する市民意識調査を 2,000 名を対象に実施しました。市民参画のもと福祉座談会を開催するべく、各校区のまち協健康福祉部会を中心に行うため、まち協推進会議に参加し、令和 6 年度 5・6 月に開催することの周知を行いました。

【相談支援・権利擁護部門】

1. 生活困窮者自立支援事業

(1) 自立相談支援事業

様々な理由によって生活困窮に陥った方の包括的な相談に応じるため面談を行い、本人の同意のもとに支援計画を作成、伴走型の支援を行う生活困窮者自立支援事業を小郡市より受託し実施しました。

【令和5年度新規相談件数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談件数	7	10	9	5	10	14	10	15	11	4	12	10	117
プラン策定前に終了	6	7	7	3	8	11	7	12	9	4	10	9	93
情報提供・相談対応のみで終了	3	5	2	2	2	4	1	3	6	1	2	6	37
プラン策定前に支援中断終了	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
他機関へのつなぎ	3	2	5	1	6	7	6	9	3	3	7	3	55
生活福祉資金の申請または検討	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	2	0	6
緊急援護資金の申請または検討	0	0	0	0	4	0	2	1	0	0	1	0	8
日常生活自立支援事業に移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生活保護へつなぎ	2	0	1	0	1	0	2	3	1	1	1	0	12
住居確保給付金	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
その他関係機関	0	2	4	1	1	7	1	2	2	2	3	2	27
プラン策定	0	3	2	2	2	3	3	3	2	0	2	1	23
支援終結	0	2	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	7
支援継続中	0	1	1	1	1	1	3	2	2	0	2	1	15
中断	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
未同意・同意に向けての取り組み	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

【継続支援件数】

平成29年度からの継続支援	1件
平成31年度・令和元年度からの継続支援	3件（内令和5年度終結1件）
令和2年度からの継続支援	2件（内令和5年度終結2件）
令和3年度からの継続支援	4件（内令和5年度終結3件）
令和4年度からの継続支援	25件（内令和5年度終結14件、中断3件）
令和5年度新規支援	24件（内終結7件中断1件）
令和5年度継続支援中	28件

【相談者の来所経路】

関係機関	福祉課生活福祉係（生活保護）	14 件	35 件	計 117 件
	子育て支援課	12 件		
	学校教育課	1 件		
	その他の課（総合案内含む）	8 件		
	地域包括支援センター	1 件		
	民生委員	1 件		
	その他関係機関	5 件		
本人直接			65 件	
家族・知人			10 件	

【地域の資源活用及び開発】

1	食糧・物品等支援 ①社会福祉法人美光瑞園会（天心園パン）：令和元年7月23日食品譲渡について覚書 ②フードバンク福岡：平成30年3月8日基本合意書 令和5年度 計22回受給
2	市民からの寄贈 【食品】米・ジュース・お菓子・食用油・インスタント食品、保存食 【物品】お米券・大人用紙パンツ・パット・新生児用おむつ・マスク・タオル・洗剤類・石鹸類・衣類・シルバーカー・車いす・毛布・家電・ポータブルトイレ
3	ふくおかライフレスキュー事業
4	他市町社会福祉協議会による広域での寄贈物品のやり取り

【支援調整会議開催】

回	開催日	提案 件数	新規 計画案件	継続 支援案件	終結 案件	中断 案件
第37回	5月16日	12	1	2	9	0
第38回	7月4日	10	4	4	1	1
第39回	9月12日	11	4	1	5	1
第40回	10月10日	7	4	3	0	0
第41回	11月30日	12	5	4	3	0
第42回	1月16日	10	3	1	6	0
第43回	2月16日	7	0	2	4	1
第44回	3月12日	5	3	0	2	0
計	8回	74	24	17	30	3

（２）住居確保給付金支給事業

休業等に伴う収入の減少により、住居を失うおそれが生じている方々について、原則3か月、最大9か月、家賃相当額を自治体から支払先に支給する事業。

＊対象：離職・廃業から2年以内で休業等により収入が減少し
住居を失うおそれがある者

令和5年度は新型コロナウイルス感染症特例措置期間も終え、コロナ禍に比べ新規申請者数は令和4年度17件に比べ減少しています。

【令和5年新規申請者】

申請者数	4件
初回受給〈3か月間支給〉 ＊4件申請内1件不支給	3件
延長受給〈6か月支給〉	0件
再延長受給〈9か月間支給〉	0件
再々延長受給〈12か月間支給〉	0件
再支給受給	0件

2. ふくおかライフレスキュー事業

(1) ふくおかライフレスキュー事業

社会福祉法第2条に規定された「地域における公益的な取組み」として、制度に対応できない様々な課題対応のために、社会福祉法人が施設種別の枠を超えて連携し、生計困難者等に対する相談・支援を行い、他機関・団体と連携し適切な制度に結びつけるほか、必要に応じて、現物支給による経済的援助を行う事業。

福岡県社会福祉協議会及び福岡県社会福祉法人経営者協議会では、地域における公益的な取組みのひとつとして、生活困窮等に陥っていても既存制度では解決できない方々等に対し、地域の社会福祉法人がそれぞれの専門性や社会資源を活かして支援を行う「ふくおかライフレスキュー事業」を進め、小郡市内においても平成31年2月に「小郡地区連絡会」を発足しました。

① ライフレスキュー事業申請 1件

ケース1	休職による世帯収入減、乳幼児含む6人世帯。生活保護費初回受給までの生計維持
------	---------------------------------------

② 小郡地区連絡会の開催

《第1回 令和5年7月6日》 ○参加団体 市内12法人 市福祉課・介護保険課 協議事項 1. 令和4年度事業報告について 2. 令和4年度事業計画予算について 3. 研修／福岡県災害派遣福祉チーム「福岡DWA T」について 説明：福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター 藤本主査
《第2回 令和6年2月29日》 ○参加団体 市内13法人 市福祉課 協議事項 1. ふくおかライフレスキュー事業支援経過について 2. ライフレスキュー通信について 3. 令和6年度事業・予算について

(2) ふくおかライフレスキュー事業小郡地区連絡会による

公益的事業の取組み

① もったいないプロジェクト

地域の方から寄せられる寄贈物をストックし、必要とされる方との調整を行っています。令和3年9月から期間限定で、寄せられた紙おむつ、紙パンツ、パッドなど臨時窓口を設置して配布し、その後も市民の方からの寄付により配布を行っています。

② 小郡地区連絡会による清掃支援

清掃支援は認知症や様々な要因により、生活する上で衛生環境の悪化が著しく見られ、保健衛生上何らかの支援が必要にもかかわらず、経済的な理由等により改善が困難な方に対し、当会会員及び支援団体の中から無償で支援協力を頂ける方を募り、サービスを提供しています。

【清掃活動ケース】

ケース 1	生活が苦しく電話もつなげていないなど、出来る限り節約した生活を行ってきたが、体調を崩し医療費がかさみ生活が出来ないと相談有 体調が優れないため自宅居室内のごみの片づけや長年放置していた敷地内植栽の剪定など一人では解決できないため、清掃支援を実施
-------	---

3. 日常生活自立支援事業

高齢者や障がいのある方で、判断能力が十分でなくても地域で安心して暮らせるように、福祉サービス利用援助や預金通帳印鑑等の預かり、公共料金等の支払いの代行を行うサービス事業を実施しました。

複合的なサービスの支援が必要となっている一人暮らしの高齢者や精神障がい者や知的障がい者から、専門員に寄せられる日常的な生活相談が増えています。

専門員 2 名 (1 名兼任)	困りごとや悩みごとの相談を受け、相談者からの要望をもとに適切な支援計画をつくり、契約を行い、継続して相談支援を行う
生活支援員 3 名	支援計画に沿って、定期的に訪問。福祉サービスの利用手続きや預貯金の出し入れを行う。臨時職員として雇用契約をしている

【契約者数】（令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日）

日常金銭管理	年金・福祉サービス利用料・医療費・公共料金・生活費の支払い、預貯金の払い出し、預入等の代行	21 件
	小郡市社協で通帳の預かり	21 件
書類の預かり	年金証書・預貯金通帳・権利書・キャッシュカード等 (福岡銀行小郡支店貸金庫)	16 件

【日常生活自立支援事業訪問活動回数】

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約者	高齢者	7	7	9	9	7	7	9	8	12	7	8	11	101
	知的障がい者	10	10	9	7	13	7	8	9	11	9	10	8	111
	精神障がい者	21	21	19	23	28	19	25	18	19	16	17	15	241
	計	38	38	37	39	48	33	42	35	42	32	35	34	453

【日常生活自立支援事業相談状況】

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規契約者		0	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	5
契約終了者		1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3	7

* 終了者：後見人移行 1 名 自己管理 4 名 死亡 2 名

4. 資金貸付事業

(1) 生活福祉資金及び緊急援護資金

生活福祉資金貸付世帯の内訳は、母子・父子世帯の申請が5件、そのうち生活保護受給世帯が3件。

緊急援護資金貸付の内訳は、生活保護初回受給までのつなぎ資金が11件、つなぎ資金ではなく特別な緊急時と判断したケースが3件、令和5年度のみの貸付償還率は83.5%となっています。

【実績】

種 類		件数	令和5年度貸付金額
総合支援資金	生活支援費	0	
福祉資金	福祉費	1	96,000 円
	緊急小口資金	4	400,000 円
教育支援資金	教育支援費	7	4,282,000 円
	就学支度費	8	申請は8件、内7件が教育支援費と就学支度費の併用申請
不動産担保型生活資金	一般世帯向け 要保護世帯向け	1	
緊急援護資金 (小郡市社協独自貸付)		14	令和5年度貸付総額：395,000 円 令和5年度貸付分償還金額：333,000 円
計	令和5年度	35	
	令和4年度	40	

5. 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた生活福祉資金特例貸付生活困窮状態が続いている借受人世帯への相談支援業務

当会ではコロナ特例貸付のみならず、生活困窮者自立相談支援事業、住居確保給付金、生活困窮者自立支援金と一連の新型コロナウイルス感染症における特例支援策の一元的窓口として対応し困窮者支援を行いました。

債権管理事務職員と生活困窮者自立相談支援員は常に連携し個別ケースに対して伴走型の支援を行う体制を実施する予定でしたが、雇用職員退職のため兼任職員で実施。そのため、生活困窮者自立支援窓口につながるケースの把握は出来ましたが、免除者、滞納者、未応答者への状況把握までは出来ていたとは言えず、次年度の課題となりました。

相談受付・対応件数【計 154】					相談後の対応				相談内容（複数選択可）					
来所	電話	メール	訪問	同行・その他	社協支援 貸し付けを含む	関係機関へつなぐ	経過観察	償還免除等その他	生活費・負債	仕事	病気・障害	住まい	家族・孤立	その他
78	35	0	14	27	103	34	5	15	114	11	10	10	16	22

6. 専門家による無料相談

(1) 無料法律相談会の実施

弁護士による無料法律相談会を実施

毎月第2・4木曜日 13:00～16:00	実施回数 21 回	弁護士 1 名 福岡県弁護士会筑後部会から派遣
--------------------------	-----------	----------------------------

【相談実績】

① 相談者

年 代	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～	不明
121 名	1	1	1	22	26	25	29	15	1

② 相談内容別件数 * 一件の相談に複数相談内容有

相談内容	件数	相談内容	件数	相談内容	件数
相 続	58	健 康	1	医 療	4
離 婚	13	土地・境界	5	賃貸借関係	1
多重債務	2	事 故	3	成年後見人	1
借金・金銭トラブル	9	近所トラブル	3	勤務先トラブル	1
保証人	2	障害者（児）福祉	4	生命保険	1
年 金	2	労 働	2		
住 宅	5	契約トラブル	5		
家族・親族トラブル	7	家族信託	1		
		合 計	130 件		

(2) 他機関による無料相談会

相談会	開 催 日	場 所	主 催	相談件数
無料調停 相談会	令和 5 年 11 月 26 日（日） 10:00～15:00	あすてらす 視聴覚室	久留米 調停協会	5 件

【生活支援部門】

1. 機材の貸出

(1) 車いすの貸出し事業

高齢者や障がいのある人に対し、医療機関への通院や入退院の送迎などのため、車いすの貸出しを行いました。 計160台

(2) 車いす対応車輛貸出事業

障がい者や歩行困難な高齢者に対して外出支援のため、車いす対応車輛の貸出を行いました。 計10回

2. 障がい児長期休暇スクール事業

市福祉課・サポネットおごおり・こぐま福祉会との連携により、障がいのある小中高校生の春・夏休みの長期休暇中に遊びと体験の場の提供、障がい児同士またボランティアとの交流、保護者の支援及びボランティアの育成としてスクールを開催しました。(冬休みは、開催中止しております)

① サマースクール

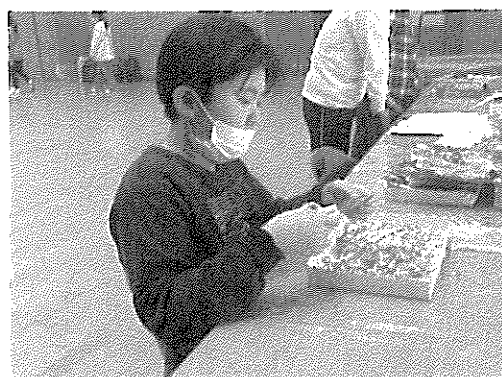
月 日	8月17日	8月18日
内 容	【ボランティア研修会】 ・障がい児の理解を深める ・車いす、白杖、アイマスク体験	【スクール】 ・夏祭り（ヨーヨー釣り、かき氷など） ・うどん調理体験・ウォークラリーなど
参加者	ボランティア 25名	参加者10名 ボランティア35名
時 間	10:00～11:30	9:00～16:00
会 場	「あすてらす」（多目的ホール）	「あすてらす」（多目的ホール）

② スプリングスクール

月 日	3月25日	3月26日
内 容	【ボランティア研修会】 ・障がい児の理解を深める ・車いす、白杖、アイマスク体験	【スクール】 ・おやつ調理体験 ・交流・散歩など
参加者	ボランティア 8名	参加者5名 ボランティア19名
時 間	13:00～15:00	9:00～16:00
会 場	「あすてらす」（多目的ホール）	「あすてらす」（多目的ホール）



サマースクール



スプリングスクール

3. 障がい児タイムケア事業の実施

障がい児の放課後や長期休暇中の居場所づくりとボランティアとの交流を目的とした障がい児の週一回の一時預かり事業を実施しました。

開催日	会 場	内 容
学業中 15時から18時	あすてらす	利用者1名にスタッフ1～2名がつき、室内で折り紙、お絵かきなどを行い、室外では近くの公園で遊具を使って過ごす
長期休暇中 10時から16時まで	大原きぼうの森館	バスハイク（佐賀県立宇宙科学館、久留米市三潯総合福祉センターゆうゆう、野の花学園ぱんの花、コスモスプラザ敬老館、楽市楽座久留米店）

回	月	日	利用者数	V0 スタッフ	回	月	日	利用者数	V0 スタッフ	回	月	日	利用者数	V0 スタッフ
1	5	11	4	6	17	9	7	4	7	32	1	11	4	7
2		18	5	6	18		14	5	6	33		18	4	7
3		25	4	6	19		21	4	6	34		25	5	7
4	6	1	5	8	20	10	28	4	5	35	2	1	5	7
5		8	4	3	21		5	4	7	36		8	5	6
6		15	4	8	22		12	4	8	37		15	5	5
7		22	3	6	23		19	5	7	38		22	5	7
8		29	5	7	24		26	2	5	39		29	4	6
9	7	6	3	8	25	11	2	4	7	40	3	7	3	5
10		13	5	7	26		9	4	5	41		14	5	8
11		20	4	8	27		16	6	4	42		21	4	7
12		27	4	8	28		30	4	9	43		28	5	10
13	8	3	4	8	29	12	7	5	8	計		43	179	282
14		10	4	7	30		14	4	7					
15		24	4	7	31		21	0	0					
16		31	4	6										



佐賀県立宇宙科学館



水遊び

4. 環境整備の推進

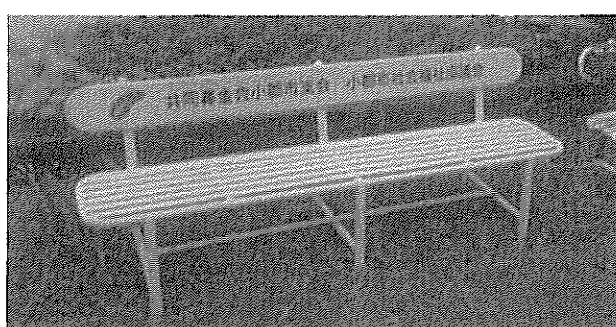
今年度は、行政区の状況に応じてベンチなどの設置及び補修を行いました。

【ベンチ設置・塗装修理】

行政区数	ベンチ設置	塗装修理
22 行政区	4 基	18 基

【遊具修理】

行政区数	設置場所	修理内容
3 行政区	公民館・神社	ブランコ塗装・チェーン座板 取替・シーソー可動部取替



5. 福祉バス（さちかぜ号）運行事業

新型コロナウイルスは5類に移行されましたが、引き続き感染予防対策として車内消毒、移動途中の換気などを行いながら、社協や支援する団体が円滑な活動ができるように、ふれあいネットワーク事業、市内の福祉団体やボランティア団体等の研修、ボランティア活動、レクリエーション事業等、地域福祉の推進を図るためマイクロバスの運行を行いました。

【福祉バス利用状況】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
令和5度 運行回数	3	8	5	2	6	10	16	17	2	9	9	8	95
令和5度 利用人員	63	202	95	21	100	212	311	351	30	153	154	143	1,835
令和4度 運行回数	2	3	6	4	3	5	13	15	4	4	7	9	75
令和4度 利用人員	36	45	130	61	44	104	318	285	62	59	128	196	1,468

6. 新型コロナウイルス感染症における特別定額給付金寄付を財源とする物資支給

令和2年「新型コロナウイルス感染症における特別定額給付」の支給を受けた市民の方からの寄付を財源に物品を購入し、生活が困窮している世帯に対し累計で171世帯に配布しました。

【物資】シャンプー・リンス・石鹸・歯磨き粉・トイレットペーパー
ティッシュペーパー・指定ごみ袋

【部門間での取り組み】

1. 総合相談支援体制の構築と包括的支援体制の整備

「福祉なんでも相談」を開設し、担当業務にこだわらない職員全体で包括的な相談支援として、「どこへ相談したらよいかわからない・どうしていいかわからない」といった相談に対応し、内容を整理した上で解決方法を考え、関係機関へのつなぎや必要なサービスや制度を探し問題解決の糸口を一緒に探していく「断らない相談」を実施。

(1) 福祉なんでも相談

【相談件数】

相談経路	電話	来所	訪問	その他	計
件数	40	30	0	3	73

【電話・来所等による相談 件数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談のみ	3	1	6	0	2	4	3	0	1	5	0	0	25
解決	0	2	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	6
関係機関へ繋ぐ	5	3	1	1	2	1	3	3	3	6	4	1	33
その他	2	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8
支援決定	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
計	10	10	11	2	4	5	7	4	5	5	11	1	73

【ホームページによる相談】

24時間いつでもスマホ・パソコンから相談できる「相談フォーム」から受け付け

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	4	3	3	0	2	7	2	3	3	3	2	1	33

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談のみ	2	3	2	0	0	3	1	0	0	1	0	1	13
解決	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	3
関係機関へ繋ぐ	2	0	0	0	1	1	0	2	0	0	1	0	7
その他	0	0	1	0	1	3	1	0	3	0	1	0	10
支援決定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	3	3	0	2	7	2	3	3	3	2	1	33

【相談内容】

電話・来所による相談	ホームページによる相談
自死・介護・家族関係・DV・認知症・福祉用具・亡父不用品処分・ひきこもり・騒音被害・年金の金銭管理・空家のごみ処分・朝刊がたまっている独居高齢者・墓じまい・相続・家出・家族の精神疾患・娘の発達・孤独死・失踪家族・離婚・親なき後の家族の支援・債務・死後手続・成年後見・通学支援など	寄付・家族関係 無収入・住まい・就労

(2) 関係機関並びに関係会議など

複合的な問題を抱えた相談や社協内での解決が難しい課題に対し、関係機関へつなげられるように既存の会議体でネットワークづくりを行いました。

会議名	参加団体	開催日時
社協と包括支援センター会議	小郡市地域包括支援センター	年 6 回
グローバルネットワーク おごおり	市福祉課、こぐま福祉会、サポ ネットおごおり	年 6 回
自立支援協議会運営会議	市福祉課、市内障がい事業所 医療機関等	毎月
自立支援協議会ネットワーク会議	障がい児者事業所	年 2 回
市福祉課会議	市福祉課との会議	2 回

(3) 多機関による協働の支援体制

ボランティアからの相談により、関係機関と協議し障がい児・者の見守り支援のボランティア団体「おむすびころりん応援団」を令和 4 年 4 月に発会。

公的サービスでは補えない障がい児・者のちょっとした困りごとに対応した居宅介護ヘルパー交代時の短時間見守りや、家族だけでは大変な外出時などの支援活動並びにグループホーム在住の利用者の外出見守り支援をボランティアサポーターの協力により 16 回行いました。

【関係機関】

市人権・同和教育課、サポネットおごおり、しょうがい者と共に生きるみんなのかえるランド、こぐま福祉会、市社協ボランティアセンター、当事者保護者
--